

琴丘 しらさぎ会だより

Shirasagikai / Kotogaoka High School Dosokai

■編集・発行
姫路市立琴丘高等学校同窓会 しらさぎ会
〒670-0052
兵庫県姫路市今宿668番地
TEL 079-292-4925 (琴丘高等学校)
<https://www.shirasagikai.com>
印刷所：大和美術印刷株式会社



大正4年
姫路市立女子技芸学校(本町)



昭和10年
姫路市立高等女学校 校舎正門(大蔵前)



昭和38年
姫路市立琴丘高等学校全景(軍崎)



姫路市立琴丘高等学校

創立110周年記念号



昭和38年
創立50周年記念式典



昭和44年
姫路市今宿に全面移転



昭和45年
体育館兼講堂完成



創立110周年記念号

校訓

誠実 勤勉 友愛

校歌

西条 八十 作詞 古賀 政男 作曲

1. かがやく大なる翼に 天翔ける白鷺朝日夕日の その高き気魄よ
我等ゆくその意気もて
学びつつ微笑める 微笑める未来へ
我等 我等 琴丘の若人 我等
2. 燃えたつ若き日の眸に ふり仰ぐ理想は 澄める知性の その雪の高嶺よ
我等ゆく腕をくみ
競いつつ薔薇いろの 薔薇いろの明日へ
我等 我等 琴丘の若人 我等
3. 世界は新しき曙 弥栄の日本 築くは 誰ぞ その誇る文化を
我等ゆく使命高く
担いつつほまれある ほまれある勝利へ
我等 我等 琴丘の若人 我等



110年の歩み

大正 2年 (1913)	4.1	姫路市立実科女学校創立 (本町) 姫路神社付属建物
大正 14年 (1925)	3.13	姫路市立高等女学校設立許可
昭和 13年 (1938)	12.28	今宿車崎 1635 (現在加藤整形外科のある付近) に新築移転
昭和 21年 (1946)	3.30	姫路市立第一高等女学校と校名変更
昭和 23年 (1948)	4.1	姫路市立琴丘高等学校と校名変更
昭和 27年 (1952)	2.15	校歌制定 作詞 西条八十 作曲 古賀政男
昭和 30年 (1955)	8.7	男子バレー部全日本高校選手権大会優勝 (姫路手柄山)
昭和 38年 (1963)	3.31 11.9	商業科廃止 創立 50 周年記念式典
昭和 44年 (1969)	9.1	新校舎へ全面移転 (今宿 668)
昭和 58年 (1983)	9.11	創立 70 周年記念式典・記念庭園竣工
昭和 61年 (1986)	4.1	英語科開設
平成 5年 (1993)	11.7	創立 80 周年記念式典 校訓校歌碑、時計塔竣工
平成 24年 (2012)	7.10	100 周年記念ホール竣工式
平成 25年 (2013)	3.20	吹奏楽部第 36 回全日本アンサンブルコンテスト全国大会出場、 クラリネット八重奏金賞受賞 (盛岡市)
	11.3	創立 100 周年記念式典
令和 5年 (2023)	11.23	創立 110 周年記念式典



ごあいさつ Greeting



「校歌～ともに声高らかに～」

姫路市立琴丘高等学校
第25代校長
中正 佳秀

日頃より、しらすぎ会の皆様には、多くのご支援をいただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。

さて、本年（令和5年）姫路市立琴丘高等学校は創立110周年という歴史を刻みます。その節目となる時に立ち会えたことを誇らしく思います。

本校は、大正2年（1913年）4月1日、姫路市本町に姫路実科女学校として創設され、以来、幾多の校種改編や校名改称を経て、昭和23年4月1日の学制改革により姫路市立琴丘高等学校（3年制）になり今日に至ります。校舎も本町、大蔵前町、今宿字車崎1635番地へと移り、昭和44年（1969年）9月1日に現在の姫路市今宿668番地に全面移転いたしました。これまでの卒業生は約3万人を数え、姫路市内では4番目に古い歴史を誇る伝統校として発展してきました。

校歌は、作詞が西条八十、作曲は古賀政男という昭和歌謡を代表するお二人により創作されたもので、生徒自らが校歌を嘆願し、当時の先生方のご尽力により完成したものです。

我等ゆくその意気もて
学びつつ微笑める 微笑める未来へ
我等 我等 琴丘の若人 我等

文武両道に努め、勤勉であるとともに、部活動や学校行事にも全力で取り組んできた琴丘高生の歴史を語るうえで、校歌は欠くことができないものです。

しらすぎ会の皆様が集われる際は、誰もが口ずさみやすい校歌を永く歌い継いでいただくことを、切に願っております。

生徒には、この歴史ある琴丘高校に在籍し、様々な学びを深めていくことに、誇り「琴丘プライド」を持ち、「チーム琴丘」の一員である自覚のもと、これからの人生を歩んでほしいと伝えております。在校生だけでなく、卒業された皆さまにもその輪が広がり、同窓の絆が、いっそう深まっていくことを期待しております。

ごあいさつ Greeting



「創立110周年を祝して」

琴丘しらすぎ会
第3代会長
三木 英一

時が経つのは速いものです。創立100周年記念大会を盛大に祝ってから、早や10年が過ぎました。この2、3年の出来事を顧みますと、コロナウィルスの感染拡大により、様々な活動に大きな影響が出ましたが、漸く収束に近づきました。また昨年2月にロシアがウクライナに侵攻してから一年半が過ぎ、泥沼化しており、日本を取り巻く国際安全保障環境も極めて危険な状況下にあります。

このような内憂外患の只中ではありますが、私達の母校が大正2年に姫路市立実科女学校として創立以来、110年が経ち、今年11月23日（祝）に記念式典並びに祝賀会を開催する運びとなりましたことを、皆様と共に慶びたいと思います。今回は「琴丘しらすぎ会だより第7号」を、創立110周年記念号として刊行することに致しました。

母校の歴史を簡単に振り返りますと、大正4年に姫路市立女子技芸学校となり、大正14年に姫路市立高等女学校として、姫路市大蔵前町2番地の元姫路西小学校舎において開校式が行われました。昭和21年に姫路市立第一高等女学校と校名変更、昭和23年に学制改革により姫路市立琴丘高等学校と校名変更、昭和44年に今宿668の現校舎に全面移転、昭和49年に創立60周年の一環として、鉄筋コンクリート造りのしらすぎ会館が竣工、平成24年には100周年ホールが竣工しました。

車崎校舎から現今宿校舎に移転になった経緯については、前八木清重会長が創立100周年記念誌において説明されている通りです。

記念講演については、創立70周年には、第4回生の中島忠能氏（元人事院総裁）が講演。創立80周年においては、第5回生の森下洋一氏（元パナソニック社長）が講演。創立100周年には第12回生の明珍宗理氏（平安時代から続く甲冑師の明珍家第52代の名工）が「伝統を守り伝える」と題して講演。今回は若い第50回生の播戸竜二氏（サッカー解説者。サッカー元日本代表）を招いて記念講演をして頂きます。周年行事を振り返りますと、多士済々の卒業生が様々な分野で活躍している姿が浮かんで参ります。

しかしながら、少子化が進み、3年後には姫路市立の3高校が1校に統合されることに決定されており、母校としては最後の周年記念行事になりました。この記念大会に多くの同窓生が参加下さることを期待し、皆様の御健勝と御多幸をお祈り申し上げ、御挨拶と致します。

ごあいさつ Greeting



「創立110周年を祝して」

姫路市長
清元 秀泰

姫路市立琴丘高等学校が創立110周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

貴校は、大正2年に姫路市立実科女学校として創設以来、市民に親しまれ地域の期待に応える学問と文化の拠点として、着実に発展してこられました。今日までの間、姫路市を中心に播磨地域を担う人材を、さまざまな分野に輩出しておられます。これはひとえに歴代の校長先生方をはじめ、教職員、地域の皆さま、さらには母校の発展を支援していただいた卒業生の皆さまの多大なる貢献のたまものであり、その功績に心から敬意を表するとともに感謝を申し上げます。

本市では総合計画「ふるさと・ひめじプラン2030」をもとに、世界遺産・国宝姫路城をはじめとした豊かな歴史文化や産業、自然環境に恵まれたふるさと姫路を舞台に、多様な人が、互いの命や暮らしをたいせつに想い、支え合って、力強く輝くことができるまちづくりを進めております。

その実現のためには人づくりが大変重要であると考えております。教育分野では、「姫路市教育大綱」ならびに「姫路市教育振興基本計画」に基づいて、ふるさとを愛し、社会の持続的な発展のために連携し、協働できる子どもの育成に力を注いでおります。

最後になりましたが、姫路市立琴丘高等学校が110周年を機に、校訓である「誠実・勤勉・友愛」の精神を基調として、その教育目標の実現をめざし、活躍されることを心から祈念して、お祝いの言葉といたします。



「創立110周年をお祝いして」

姫路市教育長
西田 耕太郎

姫路市立琴丘高等学校が創立110周年の記念すべき年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

琴丘高等学校は、大正2年に姫路市立実科女学校として発足し、姫路市立高等学校3校の中で、最も歴史のある学校でございます。昭和23年、学制改革により姫路市立琴丘高等学校に改められ、その後、昭和61年に英語科を設置、平成15年には国際文化科へと改編し、現在の普通科と国際文化科を置く琴丘高等学校へと至っております。

こうして110年という歴史と伝統を築くことができましたのは、生徒の皆さんの日々の切磋琢磨と、保護者、同窓会及び地域の皆様のご支援、そして本校の教育に献身的に全力を捧げてこられた歴代の校長、教職員の情熱の賜物と深く感謝し、敬意を表すものであります。

琴丘高等学校は、校訓「誠実・勤勉・友愛」の理念のもと、知・徳・体のバランスのとれた教育を展開し、変化の激しい社会にも的確に対応できる能力を育み、地域の人々から愛され、信頼される人材を育成するとともに、国際感覚豊かな学びを実践し、地域・日本・国際社会に貢献しようとする人材を、多数輩出してこられました。

生徒の皆さんには、先輩方が築かれた110年の良き伝統と校風を受け継ぎ、一人一人が自分の可能性にチャレンジし、創造性豊かな人間へと成長され、これからの社会で活躍されることを心から期待しています。

最後になりましたが、保護者、同窓会及び地域の皆さまのより一層のご支援ご協力をお願い申し上げますとともに、琴丘高等学校がますます活躍されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

ごあいさつ Greeting



「創立110周年に寄せて」

琴丘高等学校
令和5年度PTA会長
尾辻 良恵

姫路市立琴丘高等学校の創立110周年誠にありがとうございます。ここに節目の年を迎えることが出来たのも、歴代の校長先生をはじめ学校教職員の皆様のためご指導と、生徒の皆様の日々の努力、地域や教育関係者の皆様、そしてPTA諸先輩の皆様のご尽力の賜物であると深く感謝と敬意を表します。

創立110年の長い歩みの中で29,624名の卒業生が社会へはばたき、活躍されています。今では多くの皆様の思い出の学校となり、親子数世代に渡って本校が心の拠り所になっているご家庭も多いと思われます。

最近ようやく感染症の影響も落ち着き、日常の学校生活を取り戻しつつある中、創意工夫を凝らして安全対策を行い、学校行事や日々の勉強、部活動に取り組む生徒の皆様のおかげで、いよいよとした姿を目にすると、学校が求める生徒像『琴丘高生としての誇りを持ち、いつも笑顔で互いに協力し合うチームをつくり、様々な課題に対して試行錯誤を重ね、その解決策を探る！』がまさにそこにあり、胸が熱くなります。

数年後の市立高校統合・再編が決定し、この学び舎で生徒や先生方の笑顔が見られなくなると思うと寂しく残念ですが、今まで琴丘高等学校に関わってこられた全ての方々の魂が礎となり、新たな時代においても更に大きく飛躍されることを祈念いたします。



「喜びの言葉」

琴丘高等学校 生徒会長
前田 友聖

本日、琴丘高等学校創立110周年記念式典がこのように盛大に挙行されますこと生徒を代表して心からお礼申し上げます。

110年という長い歳月に、その歴史の重みを感じるとともに、記念式典で全校生徒を代表して挨拶できることを大変嬉しく、光栄に思います。これまで数知れないドラマが詰まった本校の歴史は、多くの方々のご支援のおかげ改めて深く感謝申し上げます。

琴丘高校の良さは、生徒自身が主体的に考え、全力で物事に取り組むことだと思います。自身が夢見る進路に向けて勉強に懸命に取り組み、部活動にも絶え間ない努力を重ねて優秀な成績を収めています。琴丘フェスティバル(文化祭・体育祭)や球技大会では、我々生徒会が中心に活動し、企画・運営を行い、「姫路城の障子紙を漉いて張る」「愛城会」にも積極的に参加しています。

ここ数年、新型コロナウイルスによる行動制限中は「早く元に戻って友達に会いたい」と願う学生生活を送りました。そして、帰ってきた日常には様々な変化がありました。全校集会などはオンラインで行われるなど活動には多くの制約がありました。この先も困難が訪れることは避けられません。しかし、我々は前を向き、そして物事に柔軟に対応することで学び、成長できます。困難に立ち向かい、新たな力や創造力を発揮して、明るく持続可能な未来を切り開いていきます。

令和8年度、本校を含めた市立3高校は統合され、新しい学校が設立されます。歴史ある私たちの母校が統合されることはとても寂しいですが、「琴丘魂」を受け継ぎ、生徒が自己表現やリーダーシップを発揮できる場になってほしいです。持続可能な未来が築かれることを心より期待し、生徒代表の言葉とさせていただきます。

創立110周年式典 令和5年11月23日



中正佳秀 学校長



三木英一 琴丘しらさぎ会会長



清元秀泰 姫路市長



西田耕太郎 姫路市教育長



尾辻良恵 PTA 会長



前田友聖 生徒会長



校歌独唱 年綱亨子氏



創立110周年記念講演

講師 播戸 竜二 氏(本校第50回生・平成10年卒)
サッカー解説者 サッカー元日本代表
対談者 樽本 直記 氏(元 琴丘高校サッカー部顧問)
演題 「夢そして挑戦」

樽本先生によるファシリテートで、自身の生き様やサッカーを通じたこれまでの歩みを在校生に対して熱く語っていただきました。「おバンザイ!」とこぶしを挙げての掛け声も印象的でした。



「琴丘高校での軌跡」 播戸 竜二

琴丘高等学校創立110周年おめでとうございます。1997年度卒業の播戸竜二です。卒業して早くも26年が経ちますが、少し振り返ってみたいと思います。思い返すと琴丘高校の素晴らしい情景が思い浮かびます。私は香寺から播但線に25分乗り、姫路駅に自転車を止め、そこから自転車で20分の道のりを経て、琴丘高校に通っていました。所属するサッカー部は朝練があったので、毎日7:15には登校していた記憶があります。在学中はサッカー漬けの日々。学食の美味しさや、アイスが売っていたこと(これは毎日の楽しみで、自分へのご褒美でした!)そして先生方や仲間の優しかったことが今でも心に刻み込まれています。コットン生は元々頭が良い生徒が多く、そんなに校風も厳しくなく学校生活を謳歌しようという生徒が集まってきているイメージです。1,2年生の時は緩やかに勉強をし、学校生活を楽しみ、3年生になり受験勉強を頑張る。生徒達が自由に学校生活を楽しみ、先生方も温かくそれを見守る。そんな高校だったと思いますし、そんな琴丘高校だったからこそ、私は伸び伸びと3年間を送り、プロサッカー選手になれたのだと思っています。東京に来て5年目になりますが、時々コットン生に会うと、一気にあの幸せだった高校生活の記憶が蘇ります。もうすぐ統合になり、琴丘の名前は無くなりますが、頭の中、心の中には一生残り続けるでしょう。琴丘高等学校の卒業生の誇りを持ち、これからも歩んでいきたいと思っています。

110周年記念祝賀会 令和5年11月23日 姫路キャッスルグランヴィリオホテル



歴代校長のメッセージ



「学校創立100周年
記念式典を顧みて」

第21代校長
田上 則之

琴丘高校が学校創立110周年を迎えることを心からお祝い申し上げます。前回の創立100周年記念式典は平成25年に開催しました。私は当時の校長として、記念行事に関わることができたことを大変嬉しくまた光栄に感じております。

100年というのは、大変大きな区切りなので、100周年にふさわしい記念行事をどうするのか学校、PTA、しらすぎ会の三者で幾度となく協議を重ね、具体化していったのをよく覚えています。とりわけ、しらすぎ会が力を込めて市へ要望していたのが、100周年の記念となるような建物でした。その建築が決まった時、実行委員の皆さんは安堵の表情を浮かべて喜んでおられました。たつての願いがようやく叶ったのです。

さて、110周年記念式典は、前回の式典から10年しか経っていませんが、どのような式典になるのか非常に楽しみです。現在、市立三校の統合・再編計画が進められており、琴丘高校として、次回の周年行事は開催できないかも知れません。今回の式典が関係する皆さまにとって思い出に残る素晴らしいものとなりますよう祈っています。



「桃紅 李白」

第22代校長
高桑 由雅

姫路市立琴丘高等学校創立110周年を迎えられましたことに心からお祝い申し上げます。在職中のことで先ず思い出すのは、校長室に掲げられていた一枚の色紙です。姫路市出身で東大寺別当をお務めにられた清水公照氏の手によるもので、熟視するのが朝の日課でした。一本の幹から伸びた右枝にピンクの桃の花、左枝に白い李(すもも)の花、中央に明るい表情の青年男女が描かれ、右上に「桃紅 李白」とありました。歴代の校長もこの色紙を通して、学校経営に思いを巡らせたのではと拝察しています。近年、性別・国籍・宗教・文化などの違いを受け入れ、互いに認め合うための配慮や考え方を身につけ、行動を促すダイバーシティ(多様性)教育の重要性が唱えられています。色紙に描かれた青年像を目標に、自分の大切さと共に他人の大切さを認めることのできる人づくりに努めることが国際文化科を擁する本校の責務であると感じた3年間でした。

最後になりましたが、私が職責を果たすことができたのは、生徒・教職員の頑張りはもちろんのこと、しらすぎ会やPTAの皆さま、地域住民の方々のご支援のお陰と深く感謝しお礼申し上げます。



「烏兎忽忽」

第23代校長
宇那木 隆司

こんな時間にこの場所で自分は今何をしているのだろう。下グラウンドで別所山を眺めながらロマンランの『ジャンクリストフ』の一節が浮かんだのは琴丘高に着任した1985年のこと。爾来、学級担任9年、進学主任など専門部6年を先輩諸先生方の御鞭撻のおかげで精励できたが、2000年に市教委文化課に配置換、その後教職員課・学校指導課・琴丘高教頭に配置換、100周年終了後に市教委文化財課で主任文化財専門員となるも最後の2年間を学校長として務め全国一斉休校中に退職。35年間琴丘高に籍を置いた在任は8行で記され、烏兎忽忽である。

学校長時代に学校の文化的風土という視点しか持てなかったことは学校経営者としては如何なものか。私は最後の年に下グラウンドで全校生徒を眺めながら話した。大正2年創立の琴丘高等学校が昭和44年に当地今宿別所谷に完全移転して半世紀、爾来四時の山に包まれたこの谷間に若人の息吹が溢れ生命が育まれてきた。今年も文化と祭典の日々が巡り来たり、蒼翠(そうすい)として滴る(したたる)が如き夏の山に木魂(こだま)が響く。汝等(なんじら)琴丘の若人等(わこうどら)に燦めき(きらめき)あれ、と。燦めきは生徒が選んだ言葉だった。生命を育んできた別所谷を離れた今も燦めいているだろうか。



「琴丘プライド」

第24代校長
田麿 幸夫

姫路市立琴丘高等学校創立110周年、誠におめでとうございます。私は、令和2年度1年間だけの在任でした。新型コロナの影響で、今までとは全く異なる日常になり、入学式もなく、5月6日まで臨時休業。その後分散登校、そして様々な行事が中止になりました。しかし、コロナ禍でも、生徒たちが折に触れ見せてくれた、素直で、明るい、若さに溢れた学校生活の姿は、私の目に強く焼き付いています。リモートによる集会では、「現状をプラス思考に考え、失ったものを嘆くより、得るものに夢を託す。私たち人間は、環境の変化に対応できるだけの力を持っている。一人の力は弱いかもしれないが、みんなで力を合わせれば必ず未来は開ける。そして『琴丘プライド』を持ち、笑顔を忘れず、地道な努力を重ね、誰からも愛される人になれ」というスローガンを掲げ、チーム琴丘で乗り越えよう」と語ったことが思い出されます。

終わりに、お世話になった先生方をはじめ、同窓会、PTAの皆様に深く感謝申し上げますとともに、校名が変わったとしても「琴丘プライド」が継承されていくことを心から祈念いたします。

職員のメッセージ



「琴丘での
教師生活の思い出」

間嶋 孝史 教頭

創立110周年、心よりお祝い申し上げます。

私は平成22年度から9年間、教諭として勤務しました。そして、思い出が詰まった本校の創立110周年という節目に教頭として着任した今春、見事な桜を見上げながら胸が熱くなり、身の引き締まる思いがしました。日々、思い出を振り返りながら、教師としての喜びを感じています。

ソフトテニス部顧問としての経験は、私にとって特別な思い出です。生徒たちの情熱と努力が実を結び、県大会を勝ち抜け、近畿大会や全国大会への出場を決めた瞬間は今でも鮮明に覚えています。学業においても、努力を惜しまない生徒たちの真摯な姿に刺激を受ける日々でした。受験時の追い込まれた状況で、友と支えあいながら一歩一歩力をつけ目標に到達していく姿は、いつも私を感動させてくれました。かけがえのない時間を生徒と共有できたことが私の財産となり、次への扉を開いてくれました。昔も今も「誠実・勤勉・友愛」を日々体現できるのが琴丘生です。

「琴丘」。強く、優しいこの校名が私は大好きです。「琴丘」がもっともっと愛される学校となるよう願っています。一緒に頑張ろう、「琴丘」。



「保健室からの
メッセージ」

松原 理恵 先生

姫路市立琴丘高等学校創立110周年を心よりお祝い申し上げます。

ご縁があって、琴丘高校で2度目の勤務をさせていただいています。1度目は創立80周年の年、平成5年4月に赴任しました。1000人近い生徒たちのパワーと情熱に圧倒されながら、とにかく頑張ろうと心に決め、先生方や生徒たちと共に駆け抜けた14年間でした。

そして平成28年4月から、30年前と同じように校舎2階端の隠れ家のような保健室で、生徒たちと泣き笑いの毎日を過ごしています。

満開の桜の下で楽しそうにお弁当を広げている姿、校庭の小鹿やプールで泳ぐ鴨の親子に大喜びしている姿、落ち葉掃除のご褒美の焼き芋をおいしそうに頬張る姿、体育の授業で前の山道を必死で走り、上から手を振っている姿、涙をこらえて空を見上げている姿。

保健室のベランダに出ると、生徒たちとの大切な思い出が次々浮かんで来て、懐かしく温かい気持ちになります。みんな元気かな。

今は、私が大好きな琴丘高校に、少しでも恩返しをしたいという思いで務めています。

終りに、琴丘高校にゆかりのある皆様に幸多からんことをお祈り申し上げます。



「琴丘高校に感謝」

平田 てる子 先生

琴丘高校創立110周年おめでとうございます。

平成元年度から17年間、そして令和4年度から再び勤務させていただいています。

初任で琴丘高校に着任した当時は生徒も先輩の先生方も熱くパワーにあふれていました。それを最も感じたのは、6月に1週間にわたって開催される琴丘フェスティバルでした。文化祭では、部活動のパザーと展示、クラスの催し物、体育祭では趣向を凝らしたクラス対抗応援合戦。生徒たちの企画は壮大で、担任の私が出来ののだろうかかと不安になっていたにも「私たちに任せて。先生は何も心配しなくても大丈夫。」と言って早朝から放課後遅くまで準備をしていた姿が今でも思い出されます。また、17年間女子バスケットボール部の副顧問として、スポーツ交流で姉妹都市のフェニックス訪問に同行したこと、近畿大会の引率をしたことも貴重な体験でした。

良いことも辛いこともありましたが、教師としてのスタートをこの学校でできることができたから今まで仕事を続けられました。

これからも琴丘高校の良き伝統が続いていくことを心より願っています。



「感謝」

天野 真友子 先生

琴丘高等学校創立110周年、誠におめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

私が大学を卒業して、初めて赴任したのが、この琴丘高校でした。意欲はあるもののどうにも経験不足な私を、個性豊かで熱量溢れる先生方や様々なことに挑戦し活力溢れる生徒たちが、温かく迎えてくれました。当時の職員室は笑いの絶えない職場で、雑談の中にも含蓄のある逸話を伺うことができ、琴丘高校の勢いを強く感じ、多くのことを学びました。

部活動では副顧問として剣道部にお世話になりましたが、人間味溢れる大川先生の人生論をお近くで拝聴することができたのも有難い経験です。また剣道部OB会の琴刀会の皆様にも大変お世話になりました。

昨年度の異動により琴丘高校に再び勤めています。今、私は新任の時にお世話になった敬愛する先輩方の当時の年齢を越えつつあります。先輩方のように熱く生徒に向き合っているか、後進の手本となる教師になれているかと自問し精進する日々です。琴丘で出会った皆様方に感謝申し上げますとともに、今後の琴丘高校の益々の飛躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

職員のメッセージ



「110周年を迎えて」

菅原 正裕 先生

創立110周年を迎える伝統ある姫路市立琴丘高等学校の職員であることに誇りを感じています。これまで10年間の勤務を振り返ると、赴任した2014年は創立100周年の記念式典が盛大に執り行われた翌年でした。正に新たな1ページを刻もうと身を引き締めて臨んだ着任式を今でも鮮明に覚えています。

第2学年の担任としてスタートした琴丘での教員生活は、多くの先生方のご指導と保護者の皆様のご理解ご協力により、あどけなさを残る生徒たちが逞しい青年に成長する過程を目の当たりにすることができました。当初は部活動との両立に腐心していた生徒の多くが、学期を重ねるごとに文武両道を体現し、その成長には目を見張るものがありました。特に「古豪復活」を胸に10年間顧問を務めているサッカー部の生徒諸君には驚かされました。度々発した苦言も真摯に受け止め、毎年良き伝統、新しい1ページを刻んでくれました。今後も継承されていくことを願います。

現在は生徒指導部長として、高校生という思春期の若者の育成に「KOTOGAOKA」というチームに関わることができ、本当に幸せです。卒業生諸君も、その若さ溢れる力で社会の一翼を担い始めているものと思います。私は、教育という仕事の意義を今深く噛みしめています。



「阪神大震災直後の
姉妹校訪問」

塩田 晃士 先生

忘れられない国際教育の仕事があります。1995年のアメリカ・アリゾナ州セントラルハイスクールの姉妹校訪問の引率です。当時は春休みを利用して行っていました。1995年は阪神大震災が1月17日にあった年でした。関空は無事でしたが、そこに行くまでの交通機関や高速道路は壊滅状態でした。出発の数日前にJR姫路三ノ宮間が復旧した状態でした。乗車すると、「電車内の不審物には手を触れないで、すぐに乗務員に連絡下さい。」という車内放送がずっと流れていました。数日前に地下鉄サリン事件があったからです。各駅停車で三ノ宮まで行って、倒れかけのビルや倒壊した建物の間をバスで通過して、フェリーに乗ってなんとか関空にたどり着きました。アメリカに到着してセントラル高校の歓迎式典に招待されたとき、現地の先生方や生徒諸君からものすごい拍手をして頂きました。その時の感動は今でも忘れることができません。

人間の力ではどうすることもできない自然の大災害や人を不幸に貶めるテロ事件があっても、それらを乗り越えようとする平和の力、若者の力を、この姉妹校訪問に見たように思いました。

職員のメッセージ



「琴丘高校は人生の軸」

吉川 毅 先生
平成9年卒業

高2の秋。西日が沈み薄暗くなった下グラウンド。樽本先生の御訓示の数々は、狭い視野の中の小さな世界で生きている私にとって人生の道標のようでした。恩師を扇状に囲むように、前方には個性豊かにも互いに尊重し合う少し大人の先輩方、両脇には私のすべてを受け入れ支えてくれた同期の仲間、後方には羨ましいほどの才能を持つ生意気にも憎めない後輩たち。いつもと変わらないサッカー部のミーティングの最中。「この場所をここからなくしたらあかん。」誰かに告げられたわけでもなく、突然、頭の中に降って湧いたような感覚でした。自分の進む道が決まった瞬間でした。

琴丘高校に赴任して9年目。うまくいかないときほど自分が琴丘高生であった頃の日々がよみがえってきます。職場でもある母校にはどこにでもあの頃の思い出が散らばっています。そして、教員として琴丘に戻ってくることを決意した17歳の頃の自分に恥じることもない教員人生を全うするのだと心の中で強く誓います。

目の前の生徒たちはあの頃の自分。後輩たちにとって琴丘高校で過ごす日々が人生の軸になるよう、母校の教育に邁進します。



「伝統の水色の
ユニフォーム」

多田 清志 先生

私は前任校の飾磨高校での13年の勤務の後、琴丘高校に赴任し6年目を迎えました。女子バスケットボール部の顧問を務めています。琴丘高校女子バスケットボール部といえば、津田俊二先生が指導をされている頃は西播大会では負けたことがなく、常に県大会ベスト8以上で近畿大会に何度も出場する県下でも有名な強豪校でした。ですが、私が赴任した時は、津田先生が引退されてから数年が経過し、西播地区の4部リーグに所属していました。一からのスタートでしたが、幸運にも懸命に頑張る生徒に恵まれ、生徒とともに研鑽を重ねました。ユニフォームも伝統の水色を継承し、琴丘の復活をめざしました。2年目には1部リーグに昇格し、3年目には西播大会で準優勝することができました。これは私の指導力によるものではありません。生徒たちが懸命に努力した結果です。琴丘高校の生徒は本当にすばらしい力を持っています。こんなにもすばらしい琴丘高校が統合されてしまうことは残念でありませんが、「琴丘高校」として西播大会優勝、近畿大会出場をめざし、生徒たちと努力を続けていきます。卒業生の皆さん、ぜひ応援に来てください。



「生徒たちとともに」

松本 真吾 先生

琴丘高校に赴任して13年。幸いにも先生方や生徒に恵まれて13年間学年主任として頑張ってきた。

赴任して最初に担当した学年が3年時に、100周年を迎えるということを知り、「琴丘100年愛」というタイトルで歴代OBの皆さんに生徒たちが電話でアポを取り取材してそれをまとめ、時代の流れに沿って絵巻物に仕上げるという活動を。文化祭には絵巻物を体育館に設置し、たくさんのOBの皆様に来ていただき素敵な時間を過ごすことが出来た。

普通科75回生、国際文化科18回生の学年では、1年時に「姫路の達人」そして2年時に「うちなんちゅうの魂に触れる旅」というテーマでそれぞれ地元姫路、修学旅行先の沖縄で活躍している方々に電話でアポを取り取材に行くという活動を行った。沖縄での取材をまとめたものが「姫路市立琴丘高校のおきなわレポート130」という本として出版されたことは学年主任としての集大成となった。

経験がないことに挑戦し、成果を出すことが生徒たちの自信となり、より高い目標に向かう原動力になると信じ、これからも頑張っていこうと思う。



しらすぎ会理事のメッセージ



「琴丘高校の誇り」

勝岡 郁夫
昭和38年卒業

姫路市では市立三校の統合について、検討が行なわれています。時代の流れとは言え、やがて琴丘高校の名称も消えてゆく運命にあります。

どうしても琴丘高等学校の卒業生として、忘れられない二つの誇りがあります。一つは校歌であります。

へかがやく大なる翼に 天翔ける白鷺 朝日夕日のその高さ気魄よ～

昭和26年に完成したこの校歌は、当時、英語の教師をされていた沖塩徹也氏(第七代校長)が早稲田大学の先輩にあたる西条八十氏に作詞を依頼されました。西条氏が作曲を古賀正男氏にお願いして頂き、校歌が出来ました。日本を代表する作詞家、作曲家による校歌は全国に誇るべきものであります。

二つは、昭和30年8月の全国総合体育大会、同年11月の第10回国民体育大会に於て、男子バレーボール部が全国制覇を成し遂げ、琴丘の名声を轟かせました。体育教師であった高馬先生の執念が結実したものです。

現在、校舎の玄関前に優勝の顕彰碑が設置されています。校名が跡絶えとなると寂しい限りですが、110周年を機にこの二つの誇りを後世に伝える検討をしたいものです。



「70.80.100.110周年
そして、...」

和田 恵一
昭和38年卒業

大正2年が琴丘高校前身の創立です。我が親父の生まれた年です。昭和35年家庭科の廃止になった翌年に入学、商業化の廃止と同時に卒業、その年に創立50周年と何となく節目、節目の年。琴丘高校を愛する因縁かも！70周年記念時に初めて総会に参加し学年幹事に。80周年には15回生仲間と祝賀会で飲んだ事、100周年時は式典 祝宴委員長として又、寄付集めに奔走した事、名参謀 勝岡郁夫君他委員会メンバーの協力は忘れ得ぬ生涯の思い出。その後は副会長に推され、現任事務局長としてご奉公させて頂いております。

今回の創立110周年記念総会の準備についても三木会長を筆頭に実行委員会を立ち上げ講演会講師には元サッカー日本代表の播戸 竜二氏が中正学校長のご尽力で早々に決定、記念品の作成、記念誌の編集も半年前には決定、後は祝賀会会場を埋めるだけと参加者の募集に注力。

この10年の歳月を感じながら、この度の市立三高校の統合による、最後のしらすぎ会まで幹事として元気にお世話をさせて頂く事が大好きな琴丘高校へのご恩返しと考えております。

僕の中では琴丘高等学校は永遠に不滅なのです。

しらすぎ会理事のメッセージ



「100周年の
思い出と感謝」

安原 美津代
昭和44年卒業

私としての琴丘高校の思い出はたくさんありましたが、年(歳)と共に思い出は私の心の中に閉じられて行っているように思われます。

早いもので創立100周年から10年経ちました。この10年の間に、あの優しい笑顔で導いて下さった前会長八木清重さんがお亡くなりになられたと聞かされた時は、ショックでした。いつも優しい笑顔で接して下さり、失敗した時も庇って下さり助かったという思い出もありました。もう一人お元気でいらっしゃる小松利仁さん。わからない事があるといつもわかりやすくとえ話を入れながら丁寧な教えて下さり、また交通の不便な所に行く時も送って下さるといふ心配りも嬉しかったです。本当にお二人との会合は良い思い出です。そしてまた、役員をはじめ幹事の皆様にもお礼を申し上げます。皆様のことをよく知らない私でしたが、優しく接して下さり無事終了することができました。本当に嬉しかったです。私にとっていい思い出でありいい経験でした。感謝いたします。

そして10年 今年創立110周年おめでとうございます☺



「琴丘高等学校
創立110周年の祝辞」

阿比野 剛
昭和46年卒業

我が母校琴丘高校が創立110周年を本年令和5年に迎えることになり、この長い歴史を振り返り感慨深いものがあります。愚生が入学した昭和43年という年を振り返ってみると、全国的にも左派学生達による安保闘争を初めとする学園紛争の真っ盛り、その上二年生の三学期には現在の新校舎の引っ越しが重なり、周りも騒然とした雰囲気の中での授業ボイコットなど受験勉強どころではありませんでした。

ただ、記憶にとどめているのは、小針先生を初め素晴らしい恩師、友人達の出会いに恵まれたことが社会人になってからの唯一無二の自慢できる目に見えない財産でもありました。やはり高校時代という青春を自分なりに謳歌し、人生に役立てていってこそ今の自分があると思います。

素晴らしい青春の思い出をつくってくれた母校が姫路市立三校の合併により消滅することは寂しいことですが、激変する時代の波の中で新しい幕開けをお祝いしたいと思います。



「母校」

毛利 茂義
昭和41年卒業

昭和22年から24年の間に生まれた者を《団塊の世代》と言い、また、第1次ベビーブームとも言われる。

その我々仲間たちが今や後期高齢者になり、2025問題を引き起こしている。

私が生まれた昭和22年の子供の出生数は267万人、令和4年は80万人割れと言う。正に少子高齢化である。私はその<ど真ん中>に生きて来た。

私には自分が卒業した学校がない、正しくは学舎がない。戦後経済の高度成長の影響か幼稚園から高校まで総て元あった場所から移転してしまった。跡地にはビルが、マンションが建っている。名称は自分が卒業した学校名そのものであるが、所在地が変わりも校舎も体育館も総て新しく鉄筋コンクリート造りである。何だかよそよそしく、親しみが感じられない。近い将来、市立3高校の統廃合があるという。

これも<時の流れ>というものか。そうすれば慣れ親しんだ<コットン>ともお別れである。そして母校がなくなる。



「琴丘高校
110周年に思う」

伊藤 茂男
昭和44年卒業

100周年事業を行ったのがつい最近のように思え、早、10年を過ぎてしまいました。

光陰矢の如しと申しますが歳を積み重ねると若かった高校時代も懐かしく、その時代に思いを馳せると共に人生の短さをしみじみと感じております。いずれにしても高校時代を経て今の自分が有ることに大きな喜びを感じております。

しらすぎ会の仕事をさせていただき、大先輩の三木会長、安岡教学、伊奥田 先生方の論語等、人間学を勉強するようになり論語の素晴らしさを改めて知る事となりました。人生をよりよく生きるには必須だと痛感しております。これもしらすぎ会の役員をさせていただいたお陰だと感謝致しております。

姫路市の話だと市立高校3校が1校になり姫路高校に統合されることは残念でしかたありません。110周年事業が最後になると寂しい思いです。しかしながら、しらすぎ会は永遠に続くことを期待しております。

110周年事業を成功させるべき努力を皆で協力して頂き、皆様のご協力をお願い申し上げます。



「私にとっての琴丘高校」

森 文子
昭和46年卒業

琴丘高校創立百十周年おめでとうございます。私が卒業して早五十数年になります。

思い出せばいつも笑顔で見守って下さった先生方、部活もそっちのけで毎日放課後語りあった友達に囲まれた楽しい日々の高校生活でした。そしてそのことが私の人生の基盤となり今の私があります。

小、中学校では経験出来なかった自転車通学、雨の日のバス通学も楽しかった思い出です。

まず自分が楽しいと興味を持てば人の輪も広がり世界も広がります。

六才から始めた日本舞踊も今でも続けられているのも家族の支えもありますが、高校時代の教えも随分活きていると思います。

いつも笑顔でいられるのは琴丘で出合った先生方、友達のおかげと感謝の気持ちで一杯です。

当時の友達とは月に何度か食事をしたり、楽しく語り合ったりする関係が続いています。

これからも琴丘高校の誇りと精神が引き継がれますようお祈りしています。



「琴丘高校への思い」

細野 友克
昭和47年卒業

私が姫路市立琴丘高校に入学をした1969年(昭和44年)4月、その当時の校舎は車崎にあり古く格式のある建物だと思えました。しかし、直ぐに現在の今宿の校舎に移り、当時では近代的で綺麗な建物だった様に思います。入学当初はバスケット部に入り毎日練習に明け暮れていました。しかし、足の故障により部活を辞めることとなり、その後の学校生活はあまり真面目な生徒だったとは思えませんでした。

昭和47年に卒業してから、ロータリークラブの事業の一環で1カ月間スウェーデンの女の子をホームステイで受け入れる機会がありました。彼女が琴丘高校に通っていたので、学校に車で送って行き、何年かぶりの校舎を見て懐かしく当時のことが思い出されました。

その後、高校OB会(しらすぎ会)の関係者から創立100周年を迎えるにあたり、記念事業を行うために協力の依頼を受けた事がきっかけで、今ではしらすぎ会の会計として現在まで携わってきました。先日、姫路市立3高校の統合が発表されましたが、再編の時まで精一杯務めさせて頂きたいと思っております。

しらすぎ会理事のメッセージ



「110周年に思う事」

鎌谷 正弘
昭和47年卒業

創立110周年を迎えて思う事は、多くの先生方、先輩方として今を担っている現役に至るまでが、各々の夢をもって紡いできた結果を、今更ながら凄いパワーの塊だと実感しています。

私は車崎校舎で入学式を迎え、まだ真新しい今宿校舎で昭和47年に卒業を迎えることが出来ました。時代はどんどん変わっていきますが、自由で明るい気風は失われることなく面々と続いているのを嬉しく感じます。また、学校に訪れた際も、皆が爽やかな挨拶で迎えてくれるのが改めて校風の良さを実感します。

今後市立3校が一つになることがあっても卒業生は、琴丘魂を忘れることなくプライドをもって、社会の多方面で生き生きと活躍していきたいものです。私もこれまでの歴史と伝統ある素晴らしい学校で学べたことを感謝し、これからも卒業生として恥ずかしくない様な前向きに明るく行動をしていこうと改めて感じています。

改めまして創立110周年おめでとうございます。



「バレーボールに
明け暮れた高校生活」

澤田 福文
昭和47年卒業

琴丘高校創立百十周年おめでとうございます。

私は、昭和44年入学と同時にバレー部に入部し、日々の練習に励んでいました。7月、大阪府立体育館で行われた近畿大会ではレフトエースとして出場し、1・2回戦を突破しましたが、3回戦で敗れました。大会後、1・2年の新チームとなり夏季大会を迎えましたが、結果が思わしくなく、2年の主力選手が退部してしまいました。1年生中心のチームでは、実績を残せず、2年時では近畿大会にも出場できませんでした。3年になると澤井先生が監督として来られ、練習に一段と熱が入っていきました。6月の総体では6回戦を勝ち、リーグ戦に突入しました。あと一つ勝てば全国大会でしたが、フルセットの競り合いに敗れ夢には届きませんでした。敗戦の虚脱感は半端でなく、新たな目標が見えず、何もする気が起きませんでした。そんなとき、澤井先生より保健体育教師を勧められました。次は指導者になって全国大会を目指そうと思い受験勉強に切り替えました。大学は、現役で合格しましたが、採用試験では3度目で合格と苦戦しました。琴丘のバレーボール部で心身ともに鍛えていただいたことが、その後の教員生活での心の支えとなりました。



「高校を卒業して」

福岡 和也
昭和52年卒業

卒業後、半世紀近く過ぎた学校を訪ねてみて校門から、大きく育った桜の木々を通り抜け変わらぬ校舎を見ると、学生時代を走馬灯のように思い出す。

入学最初の教室から見えた、美しい山つつじ

その山を何周も走った部活の思い出。

不定期で行われる部活のOB・OG会が今年も開催されました。当時お世話になった部活の顧問の松浦先生・小西先生共お元気で出席をして頂き、諸先輩方々、後輩達と昔話に花が咲き、楽しく時間が過ごせた事、感慨深くおもいます。

その高校が、時代の流れでなくなるのは寂しい限りですが「思い出は永遠に。」



「110周年を迎えて」

平野 勝也
昭和57年卒業

この度、琴丘高等学校が創立110周年を迎えられた事に心よりお祝い申し上げます。

10年前に100周年記念事業を盛大に実施し、あれから10年経ち、またこのように記念式典、祝賀会、しらすぎ会会報の特別版が発行される事に大きな喜びを感じております。

思い起こせば、10年前の100周年の時に息子が、本校の3年生で在学していた関係もあり、100周年の実行委員の役を受けてからは、この10年間、普段の生活の中でも琴丘高校、しらすぎ会の名前が私の中に定着し、親子2代に渡ってお世話になった事も含めて、心の中に大きな母校愛が生まれて来ておりましたが、琴丘高校は、少子化の流れを受け、110年という長い歴史に終止符を打つ事が決まり、3年後に市立3校が統合される事が決まってしまうました。

琴丘の名前が無くなってしまふ事は、非常に残念でなりません。この110年記念事業を最後の行事として、しらすぎ会会員、在校生、教職員の方々の絆を深めて、良い思い出として心に残し、統合後も琴丘愛を持ち続けたいと思います。

しらすぎ会理事のメッセージ



「一生心に残る
かけがえのない時代」

八木 秀介
昭和59年卒業

琴丘高等学校創立110周年おめでとうございます。創立100周年の際にもしらすぎ会理事として関わらせていただきましたが、あれから10年経ち110周年という素晴らしい時をみなさんとともに迎えられることに感慨深いものがあります。

私は昭和56年に入学致しました。当時はこれから始まる高校生活に心を躍らせ期待と緊張を感じていました。私は中学時代もスポーツをしていなかったのが基本的にいわゆる帰宅部でしたが、2年生の文化祭での友人のバンド演奏を見て自分でもバンド活動を始め、その後大学に進学してからもバンド活動を続けました。

思えばたまたま見た文化祭、たまたま一緒になったバンド仲間と出会ったことが私の人生で大きな岐路になりました。今でもその仲間との交流は続いています。スポーツでやり遂げたこともなく学業の成績も大したこともなかったのですが、仲間と一緒に過ごした時間すべてが何よりの財産になったと思っています。そんな仲間と出会える空気が琴丘にはありましたし、今でもそれは続いているに違いないと感じます。そんな素晴らしい母校に心より、琴丘高校に永遠に栄あれ！



「琴丘の思い出」

三浦 一章
昭和61年卒業

琴丘高校創立110周年誠にありがとうございます。時の流れは早く100周年記念式典からあつという間に10年が経ちました。

その間に私たちの学年同窓会を2019年に開催しました。久しぶりの同窓会だったのですが、たくさんの同窓生と先生方にも参加していただきました。懐かしく楽しい同窓会でしたが、みんな50を過ぎての再会に老けた感に否めませんでした。前回の同窓会からはだいぶ経っていたのですが、すぐに楽しかった高校時代の話になり盛り上がりました。ホント昭和のいい時代に琴丘で高校生活を送れたことを幸せに思います。

今年に入ってからはテニス部の3学年でゴルフコンペを開催しました。38年ぶりの再会でしたが懐かしい部活の話題で楽しい1日を過ごすことが出来ました。また、後輩の活躍が嬉しく誇りに思うと同時に私自身も残りの半生もう少し頑張らねばと刺激をもらいました。

今後、市立三校が一つに合併することになるのですが、思い出の学び舎をいい形で残せたらと願っています。



「夢と希望の琴丘」

柴山 栄一
昭和62年卒業

琴丘高校110周年、誠にありがとうございます。10年前の100周年記念事業よりしらすぎ会理事として携わらせて頂きました。私と妹と年子で、また娘もお世話になり、ご縁を感じています。

私の人生で琴丘高校生時代が1番思い出深く、また様々な成長をさせて頂いたと思います。バス旅行や琴丘フェス、マラソン大会、体育大会、鉢伏研修、そして尾瀬沼への修学旅行など、ソフトテニス部の校内合宿、他校では体験出来ない、琴丘ならではの行事に加えて、ソフトテニス部に汗を流し、先輩、後輩の方々と楽しく切磋琢磨したことが今でも懐かしく思い出せます。私の青春の何ページもの時間を過ごさせて頂きました。

母校も統合が決まり、無くなってしまうのは非常に寂しいですが、校舎や風景、そして何より私の人生に刻まれた数々の思い出は財産であり、永遠に私の宝物として残って行きます。

琴丘の卒業生であることを誇りに思います。

夢と希望の『こっとな』最高！！



「繋がっていく
琴丘の魂」

佐々木 賢司
平成元年卒業

琴丘高校創立110周年誠にありがとうございます。振り返りますと私の高校時代の一番の思い出は、毎日仲間と汗を流した部活動です。個人の技術もさることながら、協調性が何より大事なチームスポーツであるバスケットで私が得たものは計り知れません。社会に出てからも生かされている精神も沢山学びました。その中の一つは何があっても前に進む人間力ではないかと考えます。

京セラの創業者である稲盛和夫氏の名言に、このようなものがあります。「美しい心を持ち夢を抱き誰にも負けない努力を重ねている人に神はあたかも行く先を照らす光明を与えるかのように知恵の蔵から光明を授けてくれる」今まさに琴丘高校で学ぶ後輩の方々にも努力を重ね何か打ち込む素晴らしい青春を謳歌してもらいたいと願って止みません。

市立三校が統合再編され琴丘高校の周年行事は今回で最後となることですが琴丘に息づく伝統としらすぎ会の繋がりが今後も永遠に続くことを祈念致します。

しらさぎ会理事のメッセージ



「駆け抜ける…」

三原 隼人
平成7年卒業

体育の冬の授業は琴丘名物の山走り。男子2周、女子1周。生まれつき身体に障害がある私は、1年生の時は1周走っていたが、2年生になると先生から「今年はどうする？」と聞かれ、「2周走ります！」と自ら挑戦を決意。とは言え、体力の劣る私は、後からスタートしてくる女子に「三原くん、ファイト！」と声掛けられながらどんどん追い抜かれていく。他の生徒よりもかなり遅れて2周を走りきるが、ゴール後の達成感は最高で、それを毎回積み重ねていくと自信にも繋がった。

高校入学までは毎年5日は休んでいた私が、3カ年皆勤で卒業することとなった。卒業式終了後、担任の先生から賞状を手渡されクラスメイトから受けた拍手で鳴り響いた教室の光景は今でも私の心の中に鮮明に残っている。

現在でも、姫路城マラソンをはじめ、5キロや10キロのマラソン大会に1年に3回出場している。2022年には鳥根県での大会に参加し、地元の新報社から鳥根ゆかりの県外参加者として取材を受けた。琴丘で学んだ何事にも挑戦し努力することの大切さと日々支えてくださる方々の温かさを大切に、今後も走り続けたい。



「琴丘進学が私を音楽の道に導いた」

年綱 享子
昭和55年卒業

信じられない事に、私が郡部から姫路市に引っ越して来たのは中三になる時だった。

生徒数は4倍、教科書も全く異なり、私自身とても怖かったのに、最初に提示された高校を母は遠いからと即座に断った。そして、近いし良い音楽の先生がいらっしゃるからと言われ、琴丘を受験した。

「のんびりした校風の我が校で、特にのんびりした娘さんです。」と担任の先生のお墨付きを頂く呑気な私の唯一の習い事はピアノだったが、練習嫌いで「このままだと例え声楽でも短大すら無理よ。」と言われ、これ幸いと嫌いなピアノを辞めたのだが、学校の選択教科は音楽を選び、重蔵先生と出会った。

進路調査で放送学部を希望した時、後ろを通った重蔵先生に「貴女どうして音大受けないの？」と聞かれ、ピアノの稽古が嫌いと言えず、咄嗟にお金のせいにすると、「受験だけでもさせて下さい。」と両親を口説き、大学の先生方の紹介までして下さいました先生。

私が大阪音楽大学短期大学部に入学でき、110周年記念式典で校歌を歌える機会と歌のある生活を与えて下さった先生と琴丘に感謝！



「人と人を繋ぐ」

鬼塚 三代
昭和55年卒業

私の強烈な思い出は、生徒会役員への立候補です。誰に選まれたのか覚えていませんが友人にBGM替りに歌ってもらいながら気付けば全校生徒の前で熱い思いを訴えていました。今思えば顔から火が出るほど恥ずかしく当時の友人にも申し訳ない思いで一杯です。

後年、尼崎市議会議員として立候補し無所属新人トップで当選したときには、学生時代のそれは、忘れていましたが、よくよく考えると、人の性格などはそうそう変わるものでもないというのが良くわかる出来事でした。政治家になる前は企業の展示会や結婚式などの司会に始まり特定派遣会社を営み、人生トータルで人と人を結ぶ仕事を44年続けてきました。それは間違いなく琴丘で学んだ誠実・勤勉・友愛の教えがあればこそ。また故郷奄美には結の精神とし、人と人を結び助け合いご縁を作る想いがあります。

学生時代はフォークソング同好会で仲間が出来、仲間のバンドを紹介する為にMC会社を起業し、地域に貢献する為に政治家となり、職を辞してからは又マイクをもち今まで受けた恩をお返ししています。

私の母校はいつまでも心の中で生き続けることでしょう。琴丘高校万歳



令和5年度 琴丘しらさぎ会理事会

令和5年度 琴丘しらさぎ会理事会は琴丘高校創立110周年記念総会に特化して行われました。

日時 令和5年7月21日 18時30分～
場所 福亭

【理事会】

- 1.開会挨拶 ……司会 和田 恵一
- 2.会長挨拶 ……三木 英一 会長
- 3.学校長挨拶 ……中正 佳秀 学校長

【懇親会】 20時00分～

閉会挨拶 ……三木 英一 会長

【会計報告】 ……細野 友克 会計

【実行委員会報告】

- 記念品担当 ……鎌谷 正弘 理事
- 記念誌担当 ……平野 勝也 理事
- 式典担当 ……柴山 栄一 副会長
- 会計報告 ……森 文予 副会長
- 祝賀会担当 ……阿比野 剛 副会長
- 祝賀会司会担当者 ……鬼塚 三代(昭和55年卒業)

令和4年度 琴丘しらさぎ会会計報告書 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

収入の部		
項目	金額	備考
前年度繰越	8,752,696	前年度(中間)繰越
入会金	240,000	入会金 新入生 1,000円×240名
会費	1,789,200	会費 月額 200円/1名当り
寄付金	834,000	活動協賛費
校歌CD販売	120,000	500円×240名
HP広告収入	340,000	20,000円×13社・40,000円×2社
雑収入	5,000	同窓会名簿販売
会議費戻入金	25,883	清交倶楽部誤請求のため返金
預金金利	77	預金利息
収入合計	12,106,856	

支出の部		
項目	金額	備考
学校支援費	152,595	紙漉き講師謝礼他
学校補助費	597,440	学校案内卒業アルバム代スピーチコンテストクラウドファンディング
クラブ活動補助費	103,200	テニス部近畿大会激励金他
会報発行費	18,150	総会案内印刷
同窓会補助金・慶弔金	2,000	同窓会祝金
通信費	103,706	NTT電話・インターネット通信料・郵便料金
維持修繕品	174,625	HP運営管理 大和美術印刷・ガラス修繕
記念品費	270,000	卒業生記念品(印鑑ケース) @1,000×270名
会議費	411,483	会議費
事務費	18,260	事務アルバイト
雑費	93,896	振込手数料・収納手数料他
寄付金	2,000,000	110周年記念事業
次年度繰越	8,161,501	
支出合計	12,106,856	

監査 / [日付]令和5年6月30日(金) [時間]10:00～ [場所]しらさぎ会事務局
監査担当 / 毛利茂義・鎌谷正弘

令和4年度 琴丘しらさぎ会総会

令和4年9月4日(日)に、姫路商工会議所にて毎年恒例の、琴丘高校しらさぎ会の総会が行われました。新型コロナウイルスの影響で、3年ぶりの開催となりました。

三浦事務局次長の開会の挨拶で始まり、三木会長挨拶、中正学校長の挨拶などが行われました。そして、同じく3年ぶりとなる基調講演では、三木会長の「日是好日」-心豊かに生きる- をテーマにお話いただきました。

「生涯、学び続け、理想を持ち続け、心輝かせて生き、御恩報謝の一燈照隅行を実践し、心豊かにして人間の魅力のある、心温かい木鶏の如き風格のある老人に私はなりたい。」

と熱く語られていました。 ※詳しくは「琴丘しらさぎ会HP お知らせ」でご覧になれます。



三木会長による基調講演



琴丘高校中正学校長の挨拶



懇親会の様子



ABINO

阿比野建設

本社 | 〒671-1116
姫路市広畑区正門通4丁目3番地3
TEL | 079-236-3555(代)
FAX | 079-237-0105

ISO 45001・9001・14001取得
URL: <https://www.abino.co.jp/>

NSスーパーフレーム工法
パネル製作認定工場・設計・施工指定会社
システム建築・スタンパッケージ認定販売・施工指定会社
床暖房ブラザーモ認定販売・施工指定会社

代表取締役 阿比野 剛 (昭和46年卒)
常務取締役 森下 晴孝 (昭和54年卒)







JFT グループ

株式会社 姫路生花卸売市場
株式会社 Japan Flower Trading
JFT Vietnam Co., Ltd
株式会社 京都中央生花地方卸売市場
AOYAMA花苑、他 4社

本社 〒671-0231
兵庫県姫路市御国野町深志野300番地
TEL 079-253-9600
FAX 079-253-9950
URL <https://www.himehana.jp/>

生花、植物の在宅オークション
関連資材販売
学校教育(花育授業)
街づくり緑化支援、新規就農者支援

代表取締役 柴山 栄一 (昭和62年卒)



株式会社 IDC

本社工場：姫路市宮西町2丁目8
たつの工場：たつの市龍野町宮脇260-3
神戸工場：神戸市兵庫区芦原通4丁目2-23
TEL:079-282-1177 <https://www.idcgroup.co.jp/>
取締役会長 和田 恵一 (昭和38年卒)

テクノロジー & NEWエネルギー



株式会社 イトデン エンジニアリング

〒670-0981 兵庫県姫路市西庄甲155-1
TEL 079-292-4164 / FAX 079-292-3704
<https://www.itoden-eng.co.jp>
代表取締役会長 伊藤 茂男 (昭和44年卒)



日新産業株式会社

姫路市広畑区長町2丁目109
TEL 079-239-2321 <https://www.nisshinsangyo.co.jp/>
取締役会長 橋崎 良治 (昭和46年卒)

 学校法人 日ノ本学園 短期大学 高等学校 幼稚園
学園長 橋崎 良治 (昭和46年卒)

株式会社 警備ひやく

～ハートでガード、ハードな安心～

警備サービス 医療サービス 派遣サービス 介護施設サービス 受付・窓口サービス

姫路市飾磨区下野田二丁目313-1
TEL:079-231-1000 <https://keibi100.co.jp/>
代表取締役 細野 友克 (昭和47年卒)



ユニフォームを通じて
大きな秘めたる力を お届けする

株式会社 **カマタニ** ■本社・工場 〒671-0234 兵庫県姫路市御国野町分寺78
営業部ユニフォーム課 TEL(079)252-3311
代表取締役 鎌谷 正弘 (昭和47年卒)



総合建設 Fukuoka

株式会社 福岡建設

〒670-0073 兵庫県姫路市御立中六丁目7番2号
TEL (079) 298-4433(代) FAX (079) 298-4432
代表取締役社長 福岡 和也 (昭和52年卒)

豊かな環境づくりのお手伝い



栄伸工業株式会社

本社 〒670-0061 姫路市西今宿2丁目1番34号
TEL(079)292-2212 FAX(079)292-2213
E-mail: esu@eishin-k.biz <http://www.eishin-k.biz/>
代表取締役 菅原 栄作 (昭和54年卒)



株式会社 平野組

舗装土木・道路維持管理・アスファルト合材製造販売

〒671-1102 姫路市広畑区蒲田五丁目1715
TEL:079-239-4804/FAX:079-239-1264
URL: <http://www.hiranogumi.jp>

ISO9001認証取得 エコアクション21認証取得

代表取締役 平野 勝也 (昭和57年卒)



日章興産株式会社

兵庫県揖保郡太子町竹広 42-2 / TEL079-277-5070
代表取締役 三浦 一章 (昭和61年卒)

兵庫県姫路市で60年の歴史。
創業から紡いできた印刷技術を活用し、社会に貢献し続けます。



大和美術印刷株式会社

WEB・動画制作・マーケティング支援・各種印刷

本社: 〒671-1234 兵庫県姫路市網干区新在家1275番地
Tel.079-273-0125(代) Fax.079-274-2517
東京office: 〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町34-5 サイタービル3F
代表取締役 佐々木 賢司 (平成元年卒)